鶴岡市ゼロカーボンシティ宣言

鶴岡市は、豊かな自然環境に恵まれ、農林水産業を基幹産業とし、文化の薫り高いまちを形成してきました。この豊かな自然や、貴重な歴史的・文化的な資源は、将来の世代に長く引き継いでいかなければなりません。

しかし、私たちを取り巻く自然環境は、人類の活動で排出される温室効果ガスの影響により、台風の巨大化や集中豪雨等の異常気象による災害が多発し、安全・安心な生活が脅かされています。

これらの課題を解決するため、2015年に合意されたパリ協定や2018年に公表されたIPCC（国連の気候に関する政府間パネル）の特別報告書では、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

本市は、2020年7月にSDGs未来都市に選定されており、環境、経済、社会、３つの側面から持続可能な発展を実現し、ＳＤＧｓの理念である「誰一人取り残さない」社会づくりに取り組みます。

これまで、下水道の消化ガス発電と余熱による農作物の栽培や未利用温泉熱利用、小水力発電、森林再生など、環境分野のみならず、幅広い分野で二酸化炭素削減に先進的に取り組んできました。

また、2021年4月に稼働したごみ焼却施設では、焼却による熱を利用して発電を行い、その電力を小中学校等で利用する電力の地産地消事業や自家消費電力の環境価値の有効活用事業など、資源循環型社会の拠点として新たな取組みを進めていきます。

鶴岡市は、かけがえのない故郷を次の世代につないでいくため、豊富な地域資源の最大限の活用と、市民や事業者など多様な主体との連携により、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」に挑戦することをここに宣言します。

令和3年4月17日

鶴岡市長　皆　川　　治